

第2回医療・病床懇話会の概要（北河内二次医療圏）

1 将来のあるべき姿の到達度を測定する指標（案）・病床機能分化の方向性等について

- 将来のあるべき姿の到達度を測定する指標として、「将来にむけて回復期への転換が必要な病床」を設定し、今後、地域医療構想の進捗状況をモニタリングしていくことについて、認識の共有を図った。
- 回復期機能の充実とあるが、「回復期はこれ」という明確な指標を府の方で打ち出した方がよいのではないか。
- 各病院プランをトータルすると全体で病床が 42 床減少となっているが（※）、圏域の病床が減床となっていくことについては、危惧すべきではないか。介護施設への転換による病床減であるが、別の視点で病床数を維持できないか、行政には検討いただきたい。
（※）第 2 回懇話会後に修正提出のあった病院プランを含めた結果、全体で 4 床増加となった。
- 今後、高齢化が進み、北河内圏域においては、基準病床数が既存病床数を上回ることから病床が不足することも見込まれている。その点から、需要に応じた急性期機能を維持するべく、圏域における非稼働病床の活用や、期間を限定した増床許可の可能性等も含め話し合い、同じ方向性を共有していく視点が必要ではないか。
- また、北河内圏域は中小病院が多いが、これら病院が今後の救急需要に対応した看護師配置を確保していけるか危惧される。

2 病院の将来プラン等※について

（1）保健医療協議会においてプラン等の内容について説明を希望する病院

特になし

（2）その他、病院のプラン等に対する意見・質問等

特になし

※公的医療機関等 2025 プラン、新公立病院改革プランにかかる補足調査、将来に向けた病院のプランに関する調査